

新入職員 入組式



JA筑紫は4月1日、JA本店で2020年度新入職員入組式を行った。決意を新たに式に臨んだ7名は、緊張した様子で辞令を受け取りました。

新入職員代表の小森功貴さんは「組合員や地域の方々に親しまれる職員になれるよう、常に自己研鑽に励み、役割を全うしていきたいです」と力強く決意を表明しました。

白水組合長は「目標を持って一步一步進んでほしいです」と新入職員を激励しました。

永岡集荷場落成式



JA筑紫は4月6日、永岡集荷場で落成式を行いました。

当日は、JA生産組織の部会員や、JA役職員など16名が参加。

集荷場は農業生産の拡大を図るため、2020年1月から改装工事を始めました。作業場の面積は、旧作業場の約2倍。大型冷蔵庫の増設や休憩室の新設、LED照明を使うなど、効率的な作業場を完備しました。

白水組合長は「働く環境を整えることは、高品質な農産物の出荷に繋がります。今後もより良い農産物の生産に努めてほしいです」と挨拶しました。

温湯消毒を開始



(株)JAアグリサポート筑紫は、5月28日まで2020年産水稻種子の温湯消毒を、本店横の育苗センターで行なっています。約1400箱分の水稻種子を温湯消毒し、組合員の播種作業の負担を軽減します。

温湯消毒は、水稻種子を袋詰めし、60度の湯に10分間浸します。薬品を使わずに、いもち病、ばか苗病、イネ苗立枯細菌病などの病気から種子を守る効果があります。

処理を終え強くなった種子は各生産農家が持ち帰り、4月中旬から6月上旬にかけて播種を行う予定です。

水稻播種式



ＪＡ筑紫と（株）ＪＡアグリサポート筑紫は４月９日、本店の育苗センターで、２０２０年度水稻播種式を行いました。

品種は、「夢つくし」「元気つくし」「ヒノヒカリ」。今年度はおよそ５万５千箱を播種し、出荷する予定です。

温湯消毒後、５日程度浸種し、催芽させた種子を播いて、発芽室で３日間、緑化室で３～５日間管理。その後、２５～３０日間の育苗期間を経て、農家に届けます。

白水組合長は「コロナウイルス感染防止に努め、今年も組合員の期待に応えて立派な苗を育ててほしいです」と話しました。

生タケノコ集荷



ＪＡ筑紫は、３月下旬から５月上旬まで、ＪＡ本店で生タケノコの集荷を行いました。総集荷量は約３ｔと、昨年より約５ｔの増加となりました。集荷は管内の中山間地の活性化や竹林整備を目的に取り組み、今年で１１年目。

タケノコは、近年「国産」の需要が高まっているため、研修会や座談会などで出荷を組合員に呼び掛けています。

集荷されたタケノコは、大・中・小・外・穂先の規格別に分けられ、加工業者に出荷されます。

平嶋さん グランドチャンピオン受賞



福岡県肉用牛生産者の会は16日、JA全農ミートフーズ棟で、2020年度第1回福岡県肉用牛生産者の会枝肉共励会を開き、JA筑紫肥育牛部会の平嶋正幸さんがグランドチャンピオンに輝きました。

今回は、新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮し、表彰式を中止。同日開催の総会も書面議決となりました。枝肉価格についても新型コロナウイルスの影響により厳しい相場展開の中、生産者が協力し42頭の黒毛和牛が出品されました。

グランドチャンピオンを受賞した平嶋さんの枝肉は、枝重量約568kgで、肉質等級はA5、脂肪交雑（BMS）はナンバー12。

平嶋さんは、2014年に初めてグランドチャンピオンに輝き、今回で3回目。受賞した平嶋さんの息子・健太郎さんは、優勝カップを受け取り「エサをよく食べ順調に飼育でき、ここ何年かで最高の仕上がりでした。自信を持って出品した牛が、グランドチャンピオンを受賞できて嬉しかったです」と喜びを語りました。